

## 社会貢献の取り組み

For The Future

### 今年も「高専ロボコン」に協賛します

「高専ロボコン(アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト)」は全国から61校62キャンパスの高等専門学校が参加する全国規模の教育イベントで、1988年から毎年開催されています。各キャンパスから2チームがエントリーし、10月から11月にかけて全国8地区で開催される地区大会に出場します。そこで選抜された25チームにより、11月25日(日)に全国大会が開催されます。

20回目となる今年の大会の競技の名称は「風林火山 ロボット騎馬戦」、運動会でお馴染みの騎馬戦をイメージした、旗を持った1チーム2台のロボットによる旗取り合戦です。

競技が昨年までの課題達成型から対戦形式になり、ロボットの敏捷性、耐久性、そして戦略も重要な鍵になります。

昨年の大会では課題の1つに「ロボットの縄跳び」があり、難しいと思われたこの課題も簡単にクリアするチームが続出しました。今年もアイデアを結集した各チームのロボットがフィールドを縦横無尽に動き回るものと思います。

ロボットを主要な事業にもつ当社は、協賛を通じてロボットの製作実習の場である「高専ロボコン」を今年も応援します。

2007年「高専ロボコン」大会ポスター ▶



■お問合せ先: 人事総務部 広報グループ  
Tel 093-645-8810 Fax 093-631-8837

## 陸上部NEWS

詳細情報は <http://www.yaskawa.co.jp/activities/index.htm> で公開しています。

好成績を取めた駅伝からロードへと舞台を移した2、3月も、当社陸上部の快進撃は続きました。

新人の登竜門と呼ばれる延岡西日本マラソンでは、優勝候補の筆頭として注目された立石慎士選手が終始冷静なレース運びを展開し、マラソン2回目にして初優勝を飾りました。初マラソンの福地宏行選手も中盤まで有力集団に位置し、後半粘りを発揮して5位に入賞。

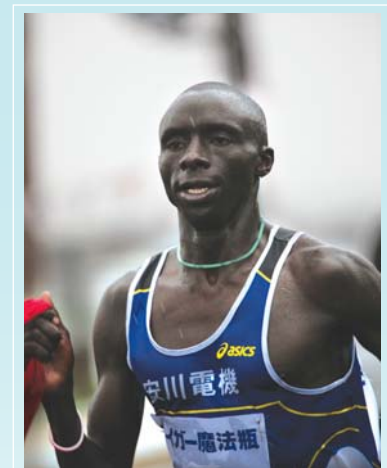
一週間後には、「この大会で好成績を納めれば世界へ羽ばたく」と形容される熊日30キロロードレースで、ウィリー・K・キムタイ選手が初優勝を飾りました。22km過ぎ

から独走し、1時間30分を切る好タイムでの優勝です。51回の伝統を誇るこの大会で、外国人選手優勝は初となり新たな歴史の一歩を刻みました。同大会に出場した中本健太郎選手も9位で新人賞を獲得。当社陸上部は優勝と新人賞のダブル受賞を果たしました。

更には200名を超える大規模な大会となった全日本実業団ハーフマラソンにおいても、岡田徹選手が終始先頭集団でレースを展開。最後の競り合いで4位入賞し、海外のハーフマラソンへ派遣されることとなりました。また、チーム上位3名の総合順位で競われる団体戦でも3位に入賞し、

駅伝シーズンの好調さをそのまま発揮することができました。

春からはトラックへと舞台を移し、新戦力も加入します。07年度も更にパワーアップしていく当社陸上部へ引き続き応援よろしくお祈りします。



▲ウィリー・カンゴゴ・キムタイ選手(06九州実業団毎日駅伝より)

#### ◆2007年春の主な戦績

日程	大会名	実績
2月11日	唐津10マイルロードレース	3名の選手が10位以内に入賞、4名が自己新記録達成。
2月18日	延岡西日本マラソン	立石慎士選手優勝、福地宏行選手5位入賞。
2月25日	熊日30キロロードレース	キムタイ選手優勝、中本健太郎選手新人賞獲得。
3月11日	全日本実業団ハーフマラソン	岡田徹選手4位入賞。団体戦3位入賞。

#### 選手の声:

I run "EKIDEN" for the first time at Mainichi Ekiden in 2006.  
A team could get the victory, and I'm so happy. My motto is "hard work pays". So I believe myself and keep running.

(Willy Kangogo Kimutai)

訳: 私は初めて2006年の毎日駅伝で「駅伝」を走りました。そしてチームが優勝できたので大変嬉しいです。私のモットーは「努力は報われる」です。自分自身を信じて走ります。